

## 優秀賞

### これからも水と共に生きるために

黒部市立清明中学校 三年 惣万 真帆

蛇口をひねると水が出てくる。私たちが住む富山では水が豊富にあるため、湧き水が出る場所もあり、いつでも蛇口からおいしい水が出てくる。私は生まれも育ちも富山なのでそれが「当たり前」だと思っていた。その「当たり前」が崩れたのは小学生の時だ。私は世界の子供たちについて調べた。

日本では上水道の整備が整っているため、蛇口をひねるだけで安全でおいしい水が出てくる。しかし海外では水道が整っておらず、簡単に水を得ることが難しい。地下水も汲めず、地面に溜まった雨水や近くに通っている川から汲むなどして不衛生な水で生活している人が世界には約八億四千万人もいる。

そんな濁って不衛生な水を飲むしか選択肢がなく命を落としてしまう子供たちが多くいるのだ。そこで初めて世界の水事情を知った。私は驚愕した。私たちにとって水とはいつも傍にある存在。しかし海外の子供たちにとっては、生きるために必要なものにも関わらず非常に貴重な存在なのだ。まさしく水による差別だと私は思った。このような状況は日本にも見られる。

三大都市圏の一つである大阪。そんな都会ともいえる場所にも水問題がある。大阪では琵琶湖を水源とする淀川によって水が賄われている。しかし地下水の汲み上げすぎによる地盤沈下が起こったり、さらには爆発的な人口増加によって下水道整備が間に合わず水質が悪化し、気軽に水道水が飲めなかつたりしていることも知った。同じ日本という国に住んでいるのに同じように水を飲めない。これも水による差別だろう。

このように生活に欠かせない水。しかし安全な水を飲めない人もいる。そんな人たちの為に私たちは何ができるのか。私は大きく分けて二つあると思う。一つ目は節水を心掛けることだ。近年では技術が向

上し、さまざまな場面で節水を行うことができる。しかし劇的に変えることは難しい。だから風呂の水の再利用や歯磨きの際の水を止めるなど、生活の小さな場面で節水を心掛けるだけでも大きな成果になると思う。二つ目は今の水問題の状態を知ることだ。これが一番大切だと思う。今自分は水が足りている、大丈夫だからといって将来どうなるかはわからない。もしかしたら世界的に深刻な水不足が起こり、風呂などに入れなくなるかもしれない。一人一人が水問題を他人事ではなく自分事にする 것도、大きな成果になると思う。この二つのことを実践することで、少しずつであるが世界は変わっていくだろうと思う。